

平成30年 9月 3日現在

機関番号：14201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17215

研究課題名(和文)利用者支援事業のためのニーズアセスメントツール(原版)の開発的研究

研究課題名(英文) Developing Needs Assessment Tool (Original Edition) for User Support of the Comprehensive Support System for Children and Child-rearing

研究代表者

榎本 祐子(平田)(EMOTO, Yuko)

滋賀大学・教育学部・特任講師

研究者番号：90707621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、利用者支援事業のためのアセスメントシート及びこのアセスメントシートを効果的に使用するためのマニュアルを開発した点である。
利用者支援事業は主に乳幼児の子育てをしている保護者の相談に応じ、あらゆる子育て支援サービスにつなぐもので、2014年度から各市町村で実施され始めている。本研究成果を使用することにより、利用者支援事業の担い手である利用者支援専門員は利用者の状況を簡便に、包括的に把握することができると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study has accomplished developing an assessment sheet for User Support of the Comprehensive Support System for Children and Child-rearing, and a manual to utilize the assessment tool effectively.
User Support of the Comprehensive Support System for Children and Child-rearing is a policy that provides consultation and referral services to various child-rearing support services to parents with infants. The policy has been implemented in municipalities throughout Japan since 2014. It is suggested that the assessment tool and the manual enable User Support Specialists, the direct service providers, to assess the clients' situation concisely, yet comprehensively.

研究分野：社会福祉学

キーワード：利用者支援事業 利用者支援専門員 アセスメントシート 実践マニュアル ソーシャルワーク

1. 研究開始当初の背景

子育て支援の必要性が社会に認識されるようになって久しい。この間、さまざまな子育て支援サービスが提供されているが、繰り返し指摘されている重要な課題がある。それは、本当に子育て支援サービスを必要としている人にうまくサービスが届かないということである。いくらサービスの質と量が充実したとしても、必要な人にサービスが届かなければ本末転倒である。

この問題を解決するために平成26年度新規事業として利用者支援事業が実施されはじめた。利用者支援事業は主に乳幼児の子育てをしている保護者に対して困った時にサポートする事業で、利用できるサービスの案内をしたり、利用者との人間関係の問題について一緒に考えてうまくいくように支援する事業で子育て支援の要となる事業である。

2. 研究の目的

本研究は利用者支援事業のニーズアセスメントツールの開発をおこなうものである。利用者支援事業が機能するためには、まず子どもと家庭の現状を簡便にアセスメントするためのツールが必要であると考えた。

そこで利用者支援事業のためのニーズアセスメントツールの開発により本事業の円滑な推進に寄与することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は利用者支援事業のためのニーズアセスメントツールの原版を開発しようとするものである。

(1)1年目は目的に向かって、大きく2つの取り組みをおこなうこととした。

1点目は滋賀県東近江市の利用者支援専門員及び担当部署職員で構成されている子育てコンシェルジュ会議に参加することである。役に立つニーズアセスメントツールを作成するためには、実践現場においてどのような課題があるのかを知る必要がある。また、現場の協力を得ることで実際に使いやすいニーズアセスメントツールを作成できると考えた。

2点目はフィンランドの子育て支援サービスの1つであるネウボラの視察をおこなうことである。利用者支援事業の母子保健型はフィンランドのネウボラを参考にしているものである。ネウボラは利用者に高い人気を誇る子育て支援サービスであり、実際に視察をすることで我が国の利用者支援事業の課題について明らかにすることができると考えた。視察では、ネウボラのケースの視察、利用者インタビュー、ネウボラナースへのインタビュー、ネウボラナース養成校教員へのインタビュー及びネウボラの研究をおこなっている研究者へのインタビューをおこなった。

(2)2年目は大きく3つの取り組みをおこなう

こととした。

1点目は1年目に引き続き滋賀県東近江市の利用者支援専門員及び担当部署職員で構成されている子育てコンシェルジュ会議に参加することである。利用者支援事業はスタートして間もない事業であり、情報も少ない。各自治体の実情について発信する必要があることから東近江市子育てコンシェルジュ事業の実践の実態や課題について論文として発表することとした。

2点目は東近江市子育てコンシェルジュとともに神奈川県横浜市の横浜子育てパートナー事業及び保育・教育コンシェルジュ事業の視察に行き、利用者支援事業の基本型と特定型それぞれの役割や連携の課題についてインタビューを試みた。

3点目は1年目でフィンランドのネウボラがうまくいっている点を我が国の子育て支援にどのように生かせるかという視点で論文をまとめ、発表することとした。

(3)最終年度である3年目は、1年目と2年目の調査等を踏まえ、実際にアセスメントツールの開発をおこなうこととした。ソーシャルワークとしてのアセスメントツール開発で博士学位も取得している知念奈美子氏に研究協力を得て「利用者状況アセスメントシート」「利用者状況アセスメントシートマニュアル」そして「連携機関からの情報整理シート」の原版作成を試みた。アセスメントシートは東近江市子育てコンシェルジュに実際に使用してもらい、現場としての意見を改良に生かした。

4. 研究成果

研究成果として、「利用者状況アセスメントシート」「利用者状況アセスメントシートマニュアル」及び「連携機関からの情報整理シート」の原版を作成した。

研究開始当初はチェック形式のアセスメントツールの作成を想定していたが、研究過程において利用者の状況を包括的に把握するために、自由記述による書き込み式がよいと示唆され、当初の予定から方向転換をした。また、利用者支援専門員は専門のバックグラウンドがさまざまであることから、アセスメントシートを有効に活用するためにマニュアルが欠かせないことが示されたため、マニュアルも作成した。加えて、連携機関からつながれてくるケースの場合、連携機関から得た情報と利用者支援専門員が直接利用者から聞き取り得た情報が必ずしも一致しないことがあり、情報整理が難しいことが明らかとなった。そのため、アセスメントシートとは別に「連携機関からの情報整理シート」を作成した。

これら利用者支援事業のためのニーズアセスメントツール一式は共同開発者2名による15回の会議及び現場の利用者支援専門員の使用感のチェック2回及び3回の聞き取

り調査によって原版の完成とした。
 今後は現場での一定期間の使用経過の報告を受け、より使いやすいアセスメントツールとなるように改良に取り組んでいきたい。

図1 利用者状況アセスメントシート

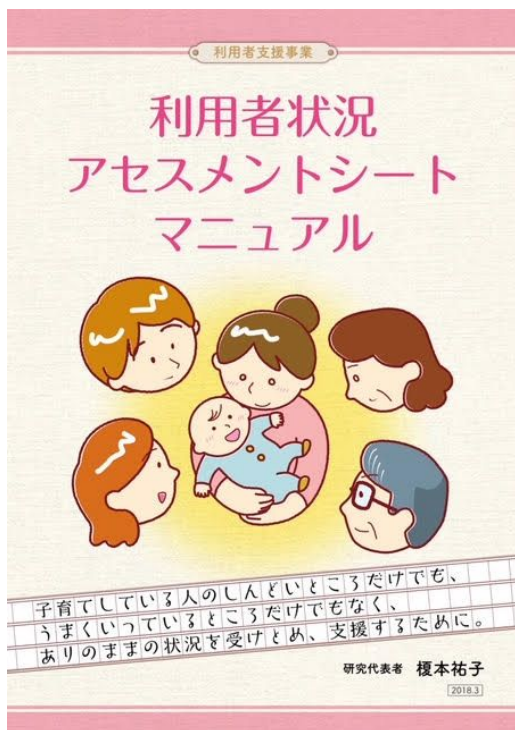


図2 利用者状況アセスメントシートマニュアル

図3 連携機関からの情報整理シート

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

榎本祐子・矢田匠・矢田明恵(2016)「フィンランドのネウボラの視察から見たわが国の利用者支援事業の課題：ケースの視察及び利用者インタビューから」『滋賀大学環境総合研究センター研究年報』13(1), 49-56, 2016-06.

榎本祐子 矢田明恵 矢田匠(2017)「保育士・幼稚園教諭に求められる保育及び子育て支援現場におけるソーシャルワーク機能についての一考察 フィンランドのネウボラの視察から」『滋賀大学教育学部紀要』66, 1-12.

榎本祐子(2017)「利用者支援事業基本型の実際と課題 東近江市子育てコンシェルジュ事業の取り組みから」『滋賀大学教育学部紀要』66, 55-67.

〔学会発表〕(計1件)

榎本祐子 利用者支援事業の方向性とその課題、日本子ども家庭福祉学会、関西学院大学、2015年6月7日

〔図書〕(計1件)

平田祐子 ミネルヴァ書房、ケースマネジメントによる子育て支援コーディネート効果的なサービス提供のために、2015、236

〔その他〕
ホームページ等
<https://ameblo.jp/emotokaken>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

榎本 祐子 (平田) (EMOTO, Yuko)

滋賀大学・教育学部・特任講師

研究者番号：90707621

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

知念 奈美子 (CHINEN, Namiko)